

市民ワークショップの開催結果について

目的

- 将来の地域公共交通のあり方、持続可能な公共交通のための地域や利用者の役割等を意見交換する。
- 地域で守る公共交通意識の醸成に向けて、住民が公共交通について考える機会にする。
- 地域で公共交通を守る体制づくりの基礎とする。
- 利用者目線での利用推進策や地域で実施できる事業についてのアイデアを収集する機会とする。

実施概要

実施時期	令和5年6月10日(土) 13:00~16:00
場所	常滑市役所1階会議室F~I
対象	4地区(青海、常滑、鬼崎、南陵)の代表者(公募、推薦等による) ※公募については、市民アンケートによって希望者を公募
参加者数	各地区1グループ 青海:5名、常滑:6名、鬼崎:6名、南陵:6名
議論の方法	グループごとに意見交換 意見を付箋に貼り模造紙に貼り付けて意見を整理していく
テーマ	第1部 テーマ① みんなが外出で困っていることを考えよう! 【様々な目的で外出する時に、公共交通を利用した場合を想定して、どのような問題・課題があるかを考える】 第2部 テーマ② 公共交通を維持するためにできることを考えよう! 【今後も地域の移動の足となる公共交通を維持していくために、①の課題を踏まえて必要なことと、地域(自分)で何ができるのか考える】

【当日の様子】



グループ【青海】

テーマ① みんなが外出で困っていることを考えよう！

■外出・通勤・移動

- ・市民病院、近くのクリニックへ通院
- ・ヤマナカ（南粕谷）、ベイシア（多屋）、カインズ（多屋）で買い物
- ・サロン（矢田公民館）に来る人が多いが、途中にバス停がない。
- ・車がないとどこにも行けない。
- ・買い物の荷物が多いので車を使う。
- ・車を所有しているので、公共交通を利用する気にならない。
- ・子どもに送迎してもらい、または歩く。
- ・駅まで遠い。
- ・電車がなし。
- ・外出意欲が減少

■ボランティア

- ・ボランティア輸送もピンとこない。
- ・工夫されているが、人数が限られている（小型）。
- ・ルートはニーズに合わせてくれるが、乗れる人数が少ない（3人）。
- ・ボランティア輸送もない。
- ・以前の北部バスが便利だった。

■バス

- ・バス停がどこかわからない。
- ・バス停までが遠い。
- ・乗り方がわからない。
- ・時刻表はあるが、使ったことがない。
- ・乗換えのためのダイヤを調べるのが大変。
- ・乗換え連絡がよくない。
- ・帰りのバスのちょうどよい時間の便がない。
- ・バス利用は、行きと帰りの時間が不安。
- ・時間を綿密に立てて行動。
- ・密な運行ができるとうい。
- ・目的地まで行くのに時間がかかる。
- ・30分くらいで、目的地にいけるとありがたい。
- ・車で10分のところ、バスでは1時間くらいかかる。
- ・道路が狭いので、ルートが限られる。

■その他

- ・道路が狭いところに高齢者が多く住んでいる（足の悪い人）。
- ・1人暮らしが多い。
- ・道路が狭くタクシーも来ない。

テーマ② 公共交通を維持するためにできることを考えよう！

【公共交通を維持するために必要なことは？】

■行動

- ・目的地までどう動くか、どう使うか。
- ・本数・ルートが限られるので、バスに合わせた行動を。
- ・利用しないとなくなってしまう。

■利用促進

- ・時刻表の使い方をレクチャーする機会をつくる。
- ・計画の立て方を教える。

■バス

- ・細かいルートが設定できるとよい。
- ・フリー乗降。

■タクシー

- ・タクシーの相乗り
- ・タクシーとの共同使用

■通勤・通学

- ・朝・夕の駅への利用を便利に。
- ・大野町駅への停車本数の増加。
- ・朝・夕は定時・定路線。

【公共交通を維持するために地域でできることは？】

■利用促進

- ・老人会・サロンを利用して、教える機会を設ける。
- ・利用方法を周知する。

■体験

- ・車に乗らなくなった時のため、元気なうちから利用する。
- ・お試して体験してみる。
- ・グループで乗車して、外出の機会をつくる。

■行動

- ・会議をグルーンの時刻に合わせる。

■その他

- ・シニアカーを公民館等へ駐車できるとよい。
- ・シニアカーのシェアリング。
- ・広い駐車場（屋根付き）。

グループ【常滑】

テーマ① みんなが外出で困っていることを考えよう！

■バス

- ・ 空港・りんくう地区へ向かう路線は、道路が渋滞していて時間がかかる。
- ・ 行きたい所への路線がない。
- ・ バスの本数が少ない。
- ・ バス停に屋根がない。
- ・ バスが積み残す。
- ・ ダイヤが合わず、目的の時間より早く目的地に行く必要がある。
- ・ スーパー等の駐車場にバス停がなく、少し離れたところにある。

■タクシー

- ・ 短い距離での利用が多い。初乗り料金が高い。
- ・ 近い所へはタクシーを頼みにくい。
- ・ 駅からのタクシーは定額料金。

■高齢者

- ・ 常滑半田線は知多バスがあり、グリーンが走っていないため、残念がっている高齢者がいる。
- ・ 高齢化した時の免許証返納後、自分の足の確保が困難になる。
- ・ サロンに出席する高齢者が自分で移動できない。
- ・ 坂道が多い。

■その他

- ・ 意外と交通空白地がある。
- ・ バス停や駅から離れた所に住宅地がある。
- ・ 駅前での駐車場確保。
- ・ 駅ロータリーが雨の時にグチャグチャになる。
- ・ 中学校の通学が大変そう。
- ・ 塾の送迎の路上駐車。
- ・ ガソリン代の高騰で生活が苦しい。

テーマ② 公共交通を維持するためにできることを考えよう！

【公共交通を維持するために必要なことは？】

■コスト

- ・ 運行コストの低減。
- ・ 交通ビジネスが成り立つように乗車する。
- ・ 公共交通の役割分担。タクシー、エリアデマンド。
- ・ 人を集める

費用とサービスへの納得感。

■利便性

- ・ 停留所の利便性を高める。
- ・ 路線の集中
- ・ 少ない路線には、デマンド交通を。
- ・ 短距離でも使いやすく、わかりやすい交通。

■乗車の促進

- ・ 自動車利用から公共交通の利用へ意識を変える。
- ・ 利用率を上げる。
- ・ 利便性をよくする。

■その他

- ・ ドライバーの確保

【公共交通を維持するために地域でできることは？】

■きっかけづくり

- ・ 人口密度を活かした取組。
- ・ 仕掛け次第で利用は増える。
- ・ 片道だけでも利用するといった意識づくり
- ・ 健康との関連付け（公共交通を利用するとよく歩く）。

■利用者に合わせるしくみ

- ・ 各バス停や駅の周辺のにぎわいづくり。
- ・ イベント等の時間を公共交通の利用を考えて設定にする。
- ・ 利便性・コスト、すべて市民の理解が重要である。

グループ【鬼崎】

テーマ① みんなが外出で困っていることを考えよう！

■バス

- ・バスに2人しか乗っていない時もある。
- ・高低差がある団地だと荷物を持って上がれない。
- ・団地は坂道が多く、歩くのが困難。
- ・足が痛い。グールのバス停は近いが、バス停まで歩くのがつらい。
- ・バス停が近くても、高齢者にはつらい。

■バス停

- ・バス停の位置を知らない人が多いのでは。わかりづらい。
- ・バス停を含め、周知が不十分。
- ・グールの周知が足りないため知らない。

■公共交通について

- ・公共交通の棲み分けがうまくできていない。
- ・電車の本数が30分に1本では少ない。

■外出時の移動

- ・病院・買い物への足がない。
- ・多屋団地（約60年）156世帯の3分の1は、通院の足がない。
- ・行き先を回るには車でなくては不便。
- ・タクシーはあまり使わない。

■その他

- ・週3日相乗りタクシー。今後の維持が難しい。
- ・将来、免許返納が不安。

テーマ② 公共交通を維持するためにできることを考えよう！

【公共交通を維持するために必要なことは？】

■新しい方法

- ・デマンド交通があるとよい。但し、年齢制限を設ける。
- ・商業チケットとからめて、経済を回していく。
- ・停留所がなくても乗り降りできる。

■効率的・効果的に

- ・バスの利用が少ないところは、車両を小さくする。
- ・ターゲットを絞って効果的に。
- ・ターゲットを高齢者にする。
- ・使うことによるメリットをはっきりさせる。

■利便性

- ・支払い方法を多様化する。
- ・バス停にベンチ等があるとよい。

■料金

- ・維持するためには有料に。
- ・有料化してもいいので安全で、利便性の良いものに。

■PR

- ・みんなに知ってもらうためのPR。
- ・周知をしっかりとる。
- ・視覚的な広報を行う。
- ・多屋駅がとてもきれいで好き。
- ・バス停を清潔に。

【公共交通を維持するために地域でできることは？】

■PR

- ・地域の人に使ってもらうようPRする。
- ・環境・健康にも良いという点をPR。
- ・SNSを利用してうまくPRする。
- ・行政面からのPR。

■地域の活性化

- ・公共交通にお金を落とす。
- ・地域にお金を落とす。
- ・免許証を返納して、公共交通を使う。
- ・使うとポイントがつくようなくみ。

グループ【南陵】

テーマ① みんなが外出で困っていることを考えよう！

■バス

- ・常滑駅へ行く時（利用する時）に終バスが早すぎる。
- ・夜のバスがない。
- ・名古屋で友人等交流会（飲み会）がある場合、制約がありすぎる。
- ・飛行機（羽田行き）に乗りたいが、朝早いバスがない。
- ・バスの運行時間（本数）が少なく困る。
- ・有料でもよいのもっと便利になってほしい。
- ・バスの乗り継ぎが悪い。
- ・目的地に直接行けない。例えば市役所に行くには、常滑駅経由でなければ行けない。
- ・南部地域のひとは名鉄武豊駅が近いので常滑駅に行くより武豊駅を利用する。
- ・バスを小型にして、本数を増やしてほしい。
- ・無料はうれしいが、100円程度なら出してもいいから利便性を高めてほしい。

■タクシー

- ・終バスがないため、常滑駅からタクシーを利用しようとしたら、駅に一台もない。
- ・タクシー会社に電話をしても台数が少ないため配車してもらえないことがある。
- ・飲み帰りでタクシー本数が少ない。相乗り制など利用できないか。

■その他

- ・雨の日の駅は渋滞する。
- ・常滑駅周辺に無料駐車場がない。
- ・中心地に集まりすぎ。
- ・高校生の移動手段を考えないといけない（武豊へ送迎している）。

テーマ② 公共交通を維持するためにできることを考えよう！

【公共交通を維持するために必要なことは？】

■利用者を増やすには

- ・若い人に使ってもらえるよう工夫する。
- ・観光客の呼び込み。
- ・中学生が雨の日にバスを利用できるようにする
- ・常滑市特有の見どころ、遊びどころを提供しつつ、周辺のアksesを整備する。
- ・南陵から常滑駅経由でいいので、病院・市役所まで行けるバスを作る。
- ・利用者にポイントを付与する。
- ・公共交通の選択肢を増やす

■料金

- ・利用料金を徴収する（100円から）。
- ・バスを有料化する。

■広域で協力

- ・半田市・武豊町との共同バス。

■新技術

- ・自動運転バスを導入する。

【公共交通を維持するために地域でできることは？】

■体験

- ・公共交通の体験
- ・子どもたちにバスの乗り方を教える。

■PR

- ・セントレアにパンフレットを置く
- ・バスを使ったイベントを行う（スタンプラリーなど）。
- ・バス車内に広告スペースをつくる（企業からの収入）。
- ・常滑市の広報に市内のお店を紹介する。

■協力

- ・地域企業とのタイアップ、協力。
- ・地域で盛り上げる
- ・ココテラスの活用

■理解

- ・ドライバーとして、バスの運行に協力する。

～各グループから出た意見からわかる主な課題・対策等～

赤字は各地域で類似している事項

グループ【青海】

グループ【常滑】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅や最寄りのバス停までが遠い、行きたいところまでのバス停が無い等の理由から、車が無いとどこにも行けない。 →公共交通のダイヤやルート等と住民の行動ニーズの乖離 ・ グルーンのバス停がどこにあるかわからない、バス停までが遠い等の理由から、運行していることは知っているが、利用したことが無い。 →さらなる周知・PR 活動とわかりやすい情報提供（老人会やサロン等の活用）、お試し乗車体験等による乗り方教室や体験の場の提供 ・ 外出意欲の低下、ボランティア輸送のルートはニーズに合わせてくれるが、乗れる人数が少ない。 →乗合・シェアリングによって、外出意欲の向上と地域力の向上 ・ 朝夕の通勤・通学と帰宅時の駅へのアクセス性向上 →朝夕限定の駅への急行便等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線の運行本数・バスの停留所数のわりに公共交通空白地がある。（バス停や駅から離れた所に住宅地がある。） →駅やバス停までのラストワンマイルの確保（公共交通の棲み分け、エリアデマンドの導入検討） ・ バス停に屋根が無く、雨天時の乗降が大変である。 →バス待ち環境の改善等による利便性の向上 ・ 公共交通と環境・健康面の関連付け →環境・健康面と関連付けた周知・PR 活動（公共交通を利用するとよく歩くため健康に良い、公共交通を使うと CO₂ 排出量が削減し、環境に良い等）
--	---

グループ【鬼崎】

グループ【南陵】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 高低差の大きい地域があり、坂道等が高齢者やからだの不自由な方にはバス停が近くてもバス停まで歩くことが困難である。 →駅やバス停までのラストワンマイルの確保（公共交通の棲み分け、エリアデマンドの導入検討） ・ 普段よく行く病院や商店への足が無く、複数の目的地を回るためには車でないと不便である。 →公共交通のダイヤやルート等と住民の行動ニーズの乖離 ・ 時間帯によっては誰も乗っていない便がある。 →利用実態に応じた車両の大きさの検討 ・ 支払方法が現金のみであるため使いにくい、バス停にベンチ等があると使いやすい。 →バス待ち環境の改善や支払い方法の多様化等による利便性の向上 ・ 現在はグルーンの料金が無料であるため助かっているが、今後維持していくためには有料にするべきである。 →有料化によるさらなる利便性の向上 ・ バス停の位置がわからないため、利用したいときに使いづらい。 →さらなる周知・PR 活動とわかりやすい情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常滑駅への利便性が低い（終バスが早い、バスの本数が少ない等）、名鉄武豊駅が近いため常滑駅に行くより武豊駅を利用する、市役所に行くためには常滑駅を経由する必要がある、手間がかかる。 →公共交通のダイヤやルート等と住民の行動ニーズの乖離 ・ 現在はグルーンの料金が無料であるため助かっているが、今後維持していくためには有料にするべきである。 →有料化によるさらなる利便性の向上 ・ 若年層へ乗り方を教え、利用者を増やす。 →お試し乗車体験等による乗り方教室や体験の場の提供 ・ 公共交通の利用を通じて地域の活性化 →バスを使ったイベントの実施（スタンプラリー等）、バス車内に広告スペースを設け、地域企業とのタイアップ（企業からの協賛金等）
--	--